



公務員を目指していたが、インターンシップがきっかけで建設コンサルタント会社の扉をたたいた上原麻衣さん。地元で就職してから、結婚を機に環境も変化。第一復建(株)に入社して1年、技術士補の経験は5年あるものの、ようやく自分の意見を言えるようになったと語る。今後の目標や仕事環境について話を聞いた。

●技術職を選んだきっかけ

大学3年生の時にインターンシップで建設コンサルタント会社を経験したことです。公務員を目指していましたが、「建設コンサルタント」は聞いたことがない職名だったので、一体どんな仕事なのか、と興味本位で行ったのを覚えています。2週間だけの短い期間でしたが、現在進行中の災害(土砂崩れ)で、民家が被災した業務に携わることができました。内勤だけでなく現地調査や打合せも経験し貴重な体験だったと思います。

公務員の道と迷いましたが、就業体験で人の安全を守る仕事を肌で知ったことが、この業界を選んだ理由のひとつです。

●現場の魅力や責務

人が安心して暮らせるための構造物を作る、それが魅力でもあり責務だと思います。とくに近年は集中豪雨や台風など多くの災害が全国各地で頻発し、ハード面を担当する建設業の役割は、年々大きくなっていると感じます。

河川を中心に設計していますが、災害から地域を守るには、どのような対策ができるのか。日々勉強の毎日。知識や経験が足りずに、焦燥感に駆られることもあります。けれど、設計したものが実際に施工されて出来上がったときは、無事にできてうれしいし、何より大きな達成感があります。

●仕事のこだわりやポリシー

疑問が浮かべばそのままにしないようにすることです。上司や先輩からの助言は忘れないように、つねにメモっています。また、各部署で情報の共有ができるように、報告書にすべて記しています。後になって、もう一度確認したい事項があれば、それをチェック。メモは覚えてしまえば破棄しますが、報告書は違います。業務を俯瞰してみることができるので、自分

担い手シリーズ 19

人の命を預かる 大事な仕事だからこそ 成長できる環境が大事

上原 麻衣 入社1年目(技術士補)
第一復建株式会社



の振り返りを怠らないようにしています。

●印象的な仕事

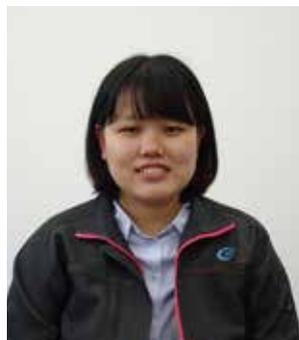
全体像を把握することも含め、自分が担当した現場には必ず行きます。その中で、今年7月の災害対応が記憶に残っています。本格的な災害業務の担当が初めてでしたので、どうやって被災したのか、どう水が流れて決壊したのかなど、ひたすら考えていました。

その後、上司と相談しながら方向性などを確認します。まだまだ、周囲のサポートに助けられています。ここ数年で、ようやく自分の意見を伝えられるようになりました。

●今後の目標

一番の目標は技術士の資格を取得することです。技術士は専門知識が豊富なことは当然なのですが、それ以上に発注者が安心感を抱いてもらえる言動を心がけたいと思います。

発注者側の知識はそれぞれです。どのような質問が打合せに出てくるかわからない。ある程度は想像して資料は揃えていても、話の流れで河川とは関係ない質問が生まれてくることもしばしばあります。知識や経験を積むことに終わりはありません。地域の安全安心を守るため、設計し未来へつなげたいと思います。



上原 麻衣(うえはら まい)
鳥取県出身。広島大学 工学部。鳥取県の建設コンサルタント入社後、令和元年6月 第一復建(株)入社。

会社概要

第一復建(株)

〒812-0006 福岡市博多区上牟田1-17-9

TEL.092-412-2230 FAX.092-412-2240

<http://www.dfk.co.jp/>